

村松先生のご退官によせて

佐々木 泰子

村松先生が昨年末、お茶大を去られた。昨年12月の研究会では「Prosodic Cohesion in Spoken Discourse」と題する先生の退官記念講演が行われた。音声による談話のまとまりの伝え方に関するそのご講演を拝聴したすべての方が、先生にまだまだお茶大にいらしていただきたかった、もっともっと教えていただきたかった、という残念な思いにとらわれたのではないだろうか。

村松先生は留学生、学部生、日本語教育コースの大学院生を対象として、音声／話し言葉を中心に指導をされた。先生のご経験やご研究に基づいた、表現力やコミュニケーション力を養成するためのお授業は、留学生にだけでなく日本人学生にも評判であった。お辞めになった後も、何とかまた指導にいらしていただけないか、という学生の声が聞かれた。

また、先生はお茶大にいらして以来、附属学校園の国語の先生方との共同研究・実践の会である「お茶の水音声言語学習会」の中心的な役割も果たしてこられた。はじめは数名の教官の集まる小さな会であったその会も、先生のご尽力で毎年夏には全国の小中学校の先生を対象とした研修会を開催したり、出版物も刊行したりする組織にまでなり、今年は10周年という節目の年を迎えた。わたしもそのメンバーに加えていただき、多くのことを勉強させていただいている。また、近年は全国各地の小学校や中学校でご講演をされ、現場教師の再研修に多大な貢献をなさっている。『教師のためのスピーチ・トレーニング法』をはじめとするご著書も数多く出版され、話し言葉とその指導の大切さを日本語教育、国語教育の世界に伝えてこられた。

平成13年にはお茶大に留学生センターが設置され、先生は留学生センターの舵取りとともに、二つの組織になってばらばらになりがちな日本語教育コースとセンターのまとめ役という重い役割を担ってくださった。今、こうして先生のお茶大時代を振り返ってみると、お一人で何役もこなされていたことに改めて気づかされ、感謝の気持ちでいっぱいである。

元NHKアナウンサーでいらした先生は、私など真似したくても決して真似することのできないすばらしいお声の持ち主、上手な話し手であり、(大学の先生とは思えないほどの!) ダンディな風貌とともに私たちのあこがれであった。しかし、実は一方で、あまり

に完璧すぎて普段はちょっと近寄りたがたい雰囲気もあった。その先生が、お酒を召し上がったときにされる楽しい本音の(?)おしゃべりや、留学生懇談会で見せられたひょうきんなお姿は、普段の先生とのほほえましいギャップとなって、ますます先生のファンが増えたものだ。

今後は、少し肩の荷を降ろされ、ご自身の研究や実践にますますご活躍されることを願っている。そして、まだまだ教えをこいたいと願っているわたしたちのために、お茶大にもぜひまた気軽にいらしていただきたいと思う。